

千代田界隈のレトロな風景



みどりの風



スモーキングタイム

今さらやめない二人の至福のひとつ

2016.8.1

-NO.215-

人・ひと日記

小林 功

永六輔さんが大往生。テレビの普及にあわせて昭和歌謡の中に沢山の懐かしい曲を残して行ってくれました。「見上げてごらん夜の星を」「上を向いて歩こう」は坂本九。「遠くへ行きたい」はジエリ藤尾。「こんにちは赤ちゃん」は梓みちよ。「おさななじみ」「いい湯だな」はデュークエイセス。泉雅子、山内賢のデュエット曲「二人の銀座」。そして水原弘の「黒い花びら」。北島三郎の「帰ろかな」も永さん作詞の曲でした。

反骨精神旺盛で日本の伝統を守ろうと「尺貫法復権運動」を起こし、尺を使って計量法違反で警察を挑発したというエピソードもありました。著書「大往生」はベストセラーになりました。「生まれてきて良かった、生きてきて良かったと思いたいのが死ぬのが大往生」と書いていました。同じ時期にザ・ピーナッツの伊藤ユミさんが亡くなったニュースがありました。大橋巨泉さんも。昭和がだんだん遠くなっていく。自分も随分生きてきた・・・実感・・・。

雨の休日。外仕事は中止。誰もいない。テレビの番組表から「猿の惑星」を見つめる。四十年前のSF映画。地球を出発して二年余りの飛行を続けた宇宙飛行士が見知らぬ惑星に不時着したところから物語は始まる。その惑星は言葉を使う猿が支配し、人間は下等動物として扱われている。猿社会の中に彼を知性のある人間として認め、抹殺しようとする権力者と守ろうとする理解者が現れる。幾多の困難を乗り越え猿社会から逃れ旅を続ける彼の前に現れたものは・・・衝撃のラストシーン。この荒廃した惑星は実は二千年後の地球であった・・・という物語。「何ということだ、ついにやってしまったのか」人間の起こす争いは、ついには核兵器の引き金を引いてしまったことを暗示するエンディング。最近、世界で起きていること、内戦、テロ、クーデター、国境・領土争い、核とミサイル開発・・・引き金を治める理性が問われる時代。

現行憲法から①国民主権②基本的人権の尊重③平和主義の三原則をなくさない、ということで作られているのが自民党の憲法草案のようです。これを知っていて、良しとして大勢の人が投票したとは思われない。一度読んでみましょう。考えてみましょう。

発行 社会福祉法人悠朋会

相模原市中央区千代田2-4-1

千代田デイサービスセンター1

042-751-0672

ヘルパーステーション千代田

042-704-0261

千代田介護支援センター1

042-704-0281

千代田相談支援センター

042-707-1434

ホームページアドレス

www.yuhokai-kaigo.com

余暇活動：クラブ／団扇作り



団扇をまず骨組みだけにし、そこに新しい紙を貼り直して皆さん思い思いの絵を描いて頂きました。自分で作った団扇で扇いだ風はいつもよりも涼しく感じられたのではないのでしょうか。

余暇活動：農園芸／すいか作り

デイサービスの屋上や周りの空いたスペースを利用して花や野菜を育てています。季節ごとにその時々の花を利用者さんと一緒に植え替えをしながら楽しんでいきます。

昨年はメロンに挑戦しましたが、大きくなる前に全滅してしまったので、今年はすいかに挑戦することになりました。

一番花で実ったすいかはあえなく割れてしまいましたが、その後は順調に育っています。夏にはみんなで食べられるかな？



今年お誕生日を迎えられた方には、杉の木に名前を彫って作った名札をプレゼントさせて頂いています。作り手は荒井秀和さんで、定年後の趣味で作られているそうです。荒井さんのご好意で毎月作って頂いています。

市民交流スペース のご案内

8月の予定

風景写真展

今野一



昼食：揚げたて天ぷら



これまでも昼食に天ぷらを提供してまいりましたが、「もう少し熱い、出来立てのてんぷらが食べたい」とお声を頂いておりました。

全ての天ぷらを熱々の状態でお出しすることは難しいのですが、海老とカニカマのうち好きな方を選んで頂き、選んで頂いたものについては揚げたてを提供することになりました。

揚げたての天ぷらに皆さんとても満足して頂けたようです。

8月の予定

- | | |
|----------|---------------|
| キーボードボラ | 7日(日) |
| 体重測定 | 8日(月)～14日(日) |
| ピアノと歌 | ～夏の童謡コンサート～ |
| | 12日(金) |
| 書道 | 15日(月)、18日(木) |
| クラフト・紙粘土 | 16日(火) |
| シナプソロジー | 19日(金) |
| 夏祭り | 21日(日)～24日(水) |
| 誕生会 | 25日(木)～31日(水) |
| 交流会 | ※夏休みの為お休みです |



熊本DPAT災害派遣福祉チームでの活動報告(益城町総合体育館)

ヘルパーステーション千代田 古屋いずみ

6/13～6/20デイサービスの近石さんとバトンタッチで、益城町の支援に参加してきました。

地震から2ヶ月経過していましたが、やっと仮設住宅に転居、公民館にシャワー設置、等生活に向けての動きが始まりました。活動は6箇所を2～3名で支援の必要な方に、訪問「ラウンド」回ります。DCATのピンク色のビブスを着用していると、通行手形のようなもので安心して相談してくれます。活動の内容は介護と言うより、「何でも屋」かな…。生活の愚痴を聞くのも大切な役割です。トラブルが発生したら包括に連携したり、市役所の連絡先を教えたり…普段経験できないことを勉強させて頂きました。



地域の関係性も分からない私達を受け入れてくれるのか?と心配していましたが「ボランティアの方がいなかったら、ここまでできなかつた、ありがたい。」と話してくれた益城町の皆さん。優しい人ばかりでした。毎日12時ミナテラスのいう建物に集合。情報交換しながら、宿泊先の職員さんの手作り昼食、「元気飯」を頂きました。訪問先から頂いた野菜が入っていたり、とにかく「おいしい!」食べ過ぎて被災太りになりそうでした。8日間滞在すると慣れてきて帰るのが名残惜しくなり、「また来ていいですか?」と聞くと、「よか!よか!」と嬉しい返事。今でも天気予報は熊本を確認してしまいます。

今回介護で支援に参加させて頂きました。介護だからふれあい、スムーズに受け入れていただけたのかな?と感じました。介護っていいですね! 充さんにバトンタッチです。



ヘルパーステーション千代田 小林充



渡辺、近石、古屋に続き、6月20日～27日にかけて熊本県益城町に介護職員の派遣隊として任務。

飛行機で到着するなり一部倒壊した空港施設を目の当たりに。最近増設した部分の床が崩れ、2カ月経過した今も使用不能との事。現場までの道中では既に補正された道路や、増設して剥き出しになった下水管が見える。電信柱も根元から傾いており、かなりの揺れとそれに伴う恐怖が想像できた。

私は5年前の東北の震災時にも宮城県気仙沼の避難所に行っているが、その時は主に津波の被害であった。揺れによる建物の倒壊に関しては、益城町の方が被害が大きいのかも知れない。

避難所にいる人は高齢の方が多い。この辺りは農業が盛んで、スイカやメロン、



根野菜が豊富に採れるそうだ。生まれてから今まで地元で生活されてきた方ばかり。集落から出た事のない人々が、これから各地の仮設住宅に振り分けられることになる。倒壊した自宅を前に「仕方ない…仕方ない」と感情を押し殺すKさんを見て、私はかける言葉がなかった。

避難されている方々の心情は察するに余りあるが、5年前の東北と今回の熊本で共通して言えるのは、とにかく周りに遠慮し、逆に支援者側への気遣いをしてくださる方が多いこと。被災者の皆さんのこころの広さ、暖かさを感じた。

被災してもなお、前向きに生きる気持ちを学んだ8日間であった。



編集後記

妻の誕生日にバラを輪プレゼントしました。バラの名前はマイガールで、ピンクの可愛いバラでした。思った以上に喜ばれ、何だか良い事をした気分になりました。週末にはバッグをプレゼントしようと思います。H